

〔指導上の留意点〕

○ 点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略などといった行書の特徴を理解させる。さらに、毛筆で行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解させる。

〔指導のポイント〕

「絶」…糸偏の連続性と、左右のバランスを意識して書く。  
 糸偏（いとへん）の書き方：二画目から三画目、そして下部の三つの点へと続く筆脈を強調します。行書では、下部の三点はバラバラに打つのではなく、一筆で書くようなリズムでつなげたり、点と点の間を省略したりして書きます。これにより、左側の「偏（へん）」に動きが生まれます。

偏から旁（つくり）への移動：糸偏の最後から、右側の「色」の一画目へ向かう動きを大切にします。空間を筆が通る意識を持たせることで、字に一体感が出ます。

字  
校  
名



〒

氏

名

〒

「色」のまとめ方：上部のクの字部分は角を少し丸くし、六画目から七画目の「巴」の部分は、筆を止めずに滑らかに運びます。最後のはねは、次の文字（景）の始筆へ向かうように、ゆったりと大きくはね出します。

「景」…中心を貫く筆脈と、下部の三つの点の軽やかなリズムを意識して書く。

上部「日」の書き方：一画目から二画目、そして中の横画へと、筆を紙から離しても勢いを止めないように書きます。楷書よりも少し角を丸く取るのが行書らしさを出すコツです。

中段の横画：この長い横画は、字の重心を支える重要な画です。左から右へ、やや伏せるような気持ちで、力強くかつスムーズに書き通します。

下部の「京」の部分：ここが一番の見せ場です。中心の縦画から、左右の点へと続く動きを連続させます。特に最後の三つの点は、一画ずつ筆を入れ直すのではなく、波打つようなリズムでつなげて書く（省略と連続）ことで、行書特有の軽やかさと速調を表現できます。

全体のバランス：上下のパーツがバラバラにならないよう、中心軸を意識させます。筆の上下運動を抑え、横に流れるような筆運びを意識すると、行書らしい「景」になります。

※「丸みを帯びる」、「形や方向の変化」、「連続」、「省略」、「筆順の変化」など行書の特徴を深く学ぶことのできる教材なので、この機会に一つひとつを丁寧に指導したい課題である。

※ 点画の連続には、次のものがあります。

- (1) 筆脈の線が出るもの
- (2) 筆脈の線で連続するもの
- (3) 前画の終筆と次画の始筆とが直接連続するもの

【行書】の特徴

- |                      |      |
|----------------------|------|
| ① 点画に丸みを帯びることがある。    | 丸み   |
| ② 点画の方向や形が変化することがある。 | 方向や形 |
| ③ 点画が連続することがある。      | 連続   |
| ④ 点画が省略されることがある。     | 省略   |
| ⑤ 筆順が変わることがある。       | 筆順   |



